

公 共 施 設 整 備 基 準

第1 道路

(1) 設計計画の基本

イ 街区及び道路計画は、施工区域外の既存公共施設との関連及び入居者・周辺住民の利便性、安全性も考慮して定めなければならない。

ロ 街区計画は、特殊な計画を除き、その長辺は100m以下短辺30m以上を基準として定めること。

(2) 道路の幅員

設置する道路の車道有効幅員は4m以上とする。道路幅員には道路側溝は含めない。ただし、「(4) 道路の側溝等 ロ」を満たし、車両通行が可能な側溝の場合には道路幅員に含めることができる。

(3) 道路の交差、隅切り

イ 道路の平面交差は、直角とする。

ロ 交差部には隅切りを設け、隅切りの一片を2m以上とする。

ハ 周辺道路の状況を考慮し、くい違い交差を避けるものとする。

ニ 必要に応じて警察や関係機関と調整を行うこと。

(4) 道路の側溝等

イ 道路には両側または片側に排水上有効な側溝を設け、流末を既設側溝または、浸透枳へ接続しなければならない。ただし、現地の状況や設置距離等を勘案し、村長が認めた場合は、この限りではない。

ロ 側溝に蓋をして道路として使用する場合は、 25 t/m^2 以上の耐圧に耐えられる構造とすること。

(5) 路面舗装

アスファルト舗装の路盤構成は、下層30cm、上層10cm、表層5cm以上とする。

(6) 勾配

縦断勾配は、0.3%以上、9%以下を基本とし、交差点付近は2.5%以下とする。ただし、事前の協議により、地形等によりやむをえない小区間にあつては12%以下とすることができる。横断勾配は2%を標準とする。

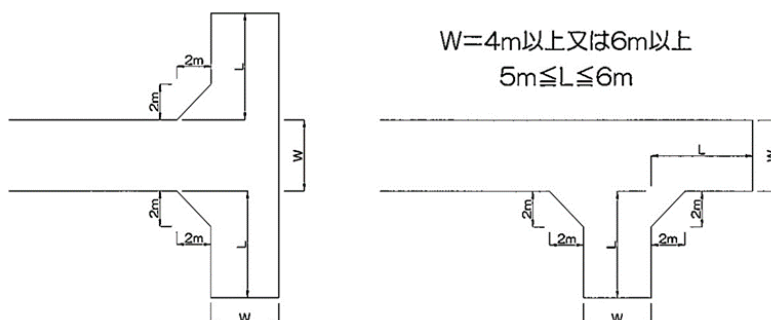
(7) 袋路状道路

袋路状道路は次の各号のいずれかに該当するものとする。

イ 幅員6m以上、かつ、延長100m以下とすること。

ロ 幅員4m（有効幅員）以上、かつ、延長35m以下とすること。

ハ 上記のイ、ロを満たさない場合は、終点には次の図のいずれかに該当する回転広場を設けること。



(8) 防護柵

次の各号のいずれかに該当する道路の区間には、防護柵(ガードレール)を設置するものとする。

- イ 道路の高低差が2 m以上あり、重大な事故が発生する恐れのある区間。
- ロ 道路が河川、水路等に接し、安全確保が必要となる区間。
- ハ その他村で必要と認めた区間。

(9) 橋梁

橋梁は永久構造とする。

(10) 照明施設

道路の照明灯設置場所及び灯具は、村長の定めるものとする。

(11) 道路標識、反射鏡及び区画線

交通事故の防止及び交通の円滑化を図るため、道路標識、反射鏡及び区画線等を適切に整備すること。ただし、交通規制が必要と判断される場合には、松本警察署との調整を行うこと。

(12) 雨水排水

雨水の計画流出量は、別記1の流量計算式により算出する。

第2 給水施設

(1) 管種

造成地内の配水管布設に使用する資材は、ダクタイル鋳鉄管のK-3種管以上、または、水道配水用ポリエチレン管を使用すること。

(2) 口径

布設管の口径は、造成等の規模を勘案し担当課と協議し決定することとする。ただし、消火栓を設置する場合はφ75 mm以上の口径とすること。

(3) 埋設深さ等

- イ 水道本管の埋設深さは地上より120 cmとする。
- ロ 管上10 cmは保護砂層とし、更に上層の埋戻しについては、良質土または砕石とする。
- ハ 本管に明示テープと管上30 cmに埋設シートを設ける。
- ニ イ〜ハについて、現地の状況等を勘案し、担当課と協議のうえ決定した場合は、この限りではない。

(4) その他本管設置基準

- イ 既設配水管からの分岐工事は不断水工法によるものとする。
- ロ 造成地の入口付近にはソフトシール仕切弁を設置すること。また、仕切弁用表函(ひょうかん)は山形村指定のものを使用すること。
- ハ 配水管の管末部には、1.5 m〜2.0 m程度の十分な泥溜め部分を設けること。また、必要に応じて排泥設備を設けることとする。
- ニ 配水管の屈折部には、45°曲管等を使用する。90°曲管は使用しないこと。
- ホ 水圧による負荷が特に大きいと想定される部分には、離脱防止金具を使用すること。
- ヘ 下水道管と同時埋設する場合は、十分な離隔距離を設け、下水道管の直上への埋設は避けること。

(5) 引込み管、止水栓、量水器等

イ 各区画への分岐はサドル分水栓を使用すること。チーズ分岐は行わない。

ロ 止水栓は、逆止付ボール止水栓（蝶ハンドル）を使用する。また、止水栓の口径がφ 20 mmで、量水器をφ 13 mmとする場合は、使用する止水栓の形式はφ 20 mm > φ 13 mmの異形止水栓を使用すること。甲B止水・ハンドル止水は使用しないこと、また、ブラッシングは使用しないこと

ハ メーターボックスの設置位置は境界から1 m以内とすること。また、毎月の検針が困難とならないよう配慮すること。

ニ メーターボックスは寒冷地仕様のものを使用し、車両などの重量物が乗る可能性がある場合は、鋳鉄製のものを使用すること。

(6) 消火栓

消火栓を設置する場合は、山形村指定のものを使用すること。

第3 排水施設

(1) 管種

造成地内の排水管布設に使用する資材は、下水道用硬質塩化ビニル管とする。

(2) 管径

布設管の口径は、φ 200 mm以上を基本とし、造成等の規模を勘案し担当課と協議し決定することとする。

(3) 埋設深さ等

本管の埋設について、次の各号に該当するものとする。ただし、現地の状況等を勘案し、担当課と協議のうえ決定した場合は、この限りではない。

イ 下水道本管の埋設深さは地上より150 cm以上とする。また、他の埋設物とは30 cm以上の離隔距離をとること。

ロ 管上30 cmは保護砂層とし、更に上層の埋戻しについては、良質土または砕石とする。

ハ 本管管上30 cmに埋設シートを設ける。

(4) マンホール基準

マンホールの種類は、維持管理上、1号組立マンホールを基本とし、蓋は山形村指定の仕様とする。また、マンホール間距離はφ 300 mm以下の場合で50 m以内とする。

(5) 配管勾配

本管配管勾配は20%を基本とする。ただし、村長が認めた場合は、適当な勾配とすることができる。

(6) 公共樹

公共樹の設置位置は境界から1 m以内とすること。また、車両などの重量物が通過し破損の恐れのある場合は鋳鉄製のものを使用すること。

(7) その他

その他詳細については、公共樹自営工事を申請し確認をすること。

(8) 汚水の計画流出量

$$QS = 1/86,400 \times F \times qs \times 1.5$$

ただし QS = 計画流出量 (m^3/sec)

F = 排水人口 (人)

qs = 1 人当たり計画汚水量 (250L/day)

第4 消防水利基準

- (1) 消火栓は $\phi 50\text{mm}$ 以上の口径を有するものとし直径 140m 以内の区域に 1 か所の割で設置し併せて消火栓ボックス及び消火器具一式を備えつけるものとする。ただし、設置にあたっては道路事情を勘案し設置するものとする。
- (2) 防火貯水槽は常時貯水量 40m^3 以上とし直径 120m 以内の区域に 1 か所とする。

第5 景観形成基準

1 土地利用計画に基づく景観区分

- (1) 住居地域及び農地 広告物、自販機、建築物等の色彩、大きさ、形状、位置の規制

① 広告物基準

別表のとおりとする。

② 自動販売機基準

別表のとおりとする。

③ 建築物基準

別表のとおりとする。

- (2) 業務地域及び公共地域 広告物、自販機、建築物等の色彩、大きさ、形状、位置の規制

① 広告物基準

別表のとおりとする。

② 自動販売機基準

別表のとおりとする。設置位置については申請許認可制

③ 建築物基準

別表のとおりとする。

- (3) 主要景観拠点

原則的には現状維持とし、整備又は保全・改修の場合は地区会議及び協議会で検討

- (4) 主要景観沿道

広告物、自動販売機、建物等の色彩、大きさ、形状、位置等の基準は住居地域に準ずるが、業務地区及び公共地区の沿道については、申請許認可制とする。

別記 1 流量計算について

計画雨水量の算出

1 最大計画雨水流出量 (合理式による)

$$Q = C \times I \times A / 1000$$

Q : 最大計画雨水流出量 (m³/時)

C : 流出係数 I : 降雨強度 50※1 A : 排水面積 (m²)

※1 : 平成 28 年 4 月 1 日から適用されている「長野県内の降雨強度式」の松本領域の確率年 10 年 降雨強度 50 (mm/30 分あたり) を適用。

ただし、算出箇所が土砂災害警戒区域内の場合は、「長野県内の降雨強度式」の松本領域 の確率年 10 年 降雨強度 78 (mm/10 分あたり) を適用。

<松本領域 10 年確率降雨強度式>

$$I = \frac{1380.2}{t^{0.83} + 11.03}$$

I : 流達時間 (t) 内平均降雨強度 (mm/時)

t : 流達時間 (分)

2 流出係数 ※参考 : 国土交通省河川砂防技術基準 調査編

工種別基礎流出係数の標準値

工種別	流出係数	中央値
屋根	0.85～0.95	0.90
道路	0.80～0.90	0.85
その他不透面	0.75～0.85	0.80 (田 0.75)
水面	1.00	1.00
間地	0.10～0.30	0.20 (庭・資材置場)
芝、樹木の多い公園	0.05～0.25	0.15 (畑 0.20)
勾配の緩い山地	0.20～0.40	0.30
勾配の急な山地	0.40～0.60	0.50

用途別総括流出係数の標準値

敷地内に間地が非常に少ない商業地及び類似の住宅地	0.80
浸透面の野外作業場等の間地を若干有する工場地域及び庭が若干ある住宅地域	0.65
1 戸建て住宅の多い地域	0.50

別表

	住居地域及び農地	業務及び公共地区	主要景観沿道
広告物 色彩 彩度 明度 色相	5.0以下 自由 無彩、黄、黄赤、青紫、 緑、黄緑、赤	9.0以下 自由 自由	5.0以下 自由 無彩、黄、黄赤、青紫、 緑、黄緑、赤
大きさ	6.0㎡以内	別記2（＊1）	6.0㎡以内
高さ	7.0m以下	13.0m以下（＊1）	7.0m以下
自動販売機 色彩 彩度 明度 色相	5.0以下 自由 無彩、黄、黄赤、青紫、 緑、黄緑、赤	9.0以下 自由 自由	5.0以下 自由 無彩、黄、黄赤、青紫、 緑、黄緑、赤
建築物 色彩 彩度 明度 色相	3.0以下（＊2） 4.0～8.0（＊2） 無彩、黄、黄赤、青紫、 緑、黄緑、赤（＊2）	9.0以下 自由 自由	3.0以下（＊2） 4.0～8.0（＊2） 無彩、黄、黄赤、青紫、 緑、黄緑、赤（＊2）
高さ	10.0m以下（＊1）	13.0m以下	10.0m以下

別記2

- ・袖看板の出幅は1.0m以下
- ・独立看板の面積は6.0㎡以下
- ・壁面看板の面積は、設置壁面の3/10以下
- ・総許容面積は60㎡以内

＊1 基準を超えるものについては申請許認可制

＊2 基準以外のものについては申請許認可制